

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 水貝 洵子	職名 講師	学位 臨床心理修士 (専門職)
----------	-------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	青年期 発達障害 生涯発達 アクションメソッド

研 究 課 題
青年期前期後期における発達障害者への臨床心理学的支援の在り方について検討を行う。 特に、臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討を行う。

担 当 授 業 科 目
【福祉学科】 (前期) ヒューマンサービス基礎演習 初年次セミナーⅠ 家族心理学演習 発達アセスメント演習 健康臨床心理学 (後期) 初年次セミナーⅡ 臨床心理学概論 障害者心理学 発達臨床心理学 認知行動療法基礎演習 スクールカウンセリング論 (通年) 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ 【看護学科】 (前期) 対人関係論 (後期) 臨床健康心理学

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】 他者との円滑なコミュニケーションの体験や自分自身への気づきを深める体験が得られることを目指し、様々なワークを実施した。その都度、受講生自身による振り返りを行った。1 年生前期での対人交流の演習のため、受講生の緊張感に配慮し、自発的にワークに臨めるようにワークの内容について吟味を行った。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 学生の提出した課題に対し、多かった回答内容や模範となる回答内容などを示しながら、ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方的なやり取りに限定されないよう、上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講生との相互的なやり取りを心がけた。
授業科目名【 家族心理学演習 】 家族の成立から、その後の家族がたどる発達段階についてその特徴や課題、支援の在り方についての解説を行った。事例などを提示して、受講生にとって、より実践的に家族の特徴や課題を捉え、支援について考える機会となるよう心掛けた。
授業科目名【 発達アセスメント演習 】 学生の多くが実習や就職後において活かせる知識と技術を身に付けようと意欲的に受講していることが予測された。そのためオンライン授業においても、発達検査や知能検査の概要を紹介するだけでなく、検査場面を具体的に提示するなどして、実践的学びとなるよう配慮した。

授業科目名【 健康臨床心理学 】 「単位数を確保する」という受講動機の学生がほとんどであり，受講人数も少なかったため，受講学生の関心領域を尋ねて授業内容と関連を持たせるなどし，学生が意欲的に受講できるよう配慮した。体験型のワークを実施し，ワークを通じた学生なりの考えや感想を述べる課題を多く設け，またそれに対し教員がコメントをするなど双方向的なやり取りをこころがけた。
授業科目名【 臨床心理学概論 】 1 年生を対象に臨床心理学の基礎的理論について解説を行った。学生からの各授業への質問や感想などに対し，次の授業で回答や解説を行うなどして，学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。
授業科目名【 障害者心理学 】 精神障害から身体障害にわたり代表的な障害を取り上げ，診断的理解および社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の視点から解説を行った。診断的理解にとどまらず，当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう，事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても，臨床心理学的援助を紹介しながら解説を行った。
授業科目名【 発達臨床心理学 】 発達障害当事者の手記などを題材として，障害当事者の体験理解を目指した。障害に対し多面的に考える機会となるよう様々な事例を提示した。
授業科目名【 認知行動療法基礎演習 】 認知行動療法について初めて学習する学生もいたため，授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて解説した。後半は，医療や福祉など様々な領域において実践された事例を紹介し，学生が学習した知識や理論をどのように実践の場で活かしていくのかイメージできるよう工夫した。
授業科目名【 スクールカウンセリング論 】 受講人数は少なかったが，実習や就職後に活かそうと意欲的に受講する学生が多かった。そのため，学校における諸問題について多角的な視点から捉えられるようになることを目標とし，複数の事例の提示を行い，学生が援助者だった場合にはどのように事例に対応するかについて，学生同士や教員も交えた議論を多く実施した。
授業科目名【 専門研究Ⅰ・Ⅱ 】 学生は自らキーワードやテーマを設定し，文献を選択した。文献講読やディスカッションを通じ，そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう，学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。
授業科目名【 対人関係論 】 看護における対人関係の基礎となる心理学的理論や知識について解説を行った。1 年生を対象としており，心理学を学習するのは初めての学生が多いと考えられたため，学生からの各授業への質問や感想などに対し，次の授業で回答や解説を行った。相互的なやり取りを増やし，学生の理解が促されやすいよう配慮した。
授業科目名【 臨床健康心理学 】 臨床心理学についての基礎知識および医療現場で出会う患者の心理についての解説を行った。受講生によって臨床心理学に関する基礎知識への理解度の差がみられたため，基礎的な内容について解説を行うとともに，医療現場ではどのように活かされるのか等の具体例や適切な対応例を挙げるなどして，発展的な内容となるよう配慮した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理劇学会 日本リハビリテーション心理学会 日本心理臨床学会 日本発達心理学会 特殊教育学会 日本心理学会	日本発達心理学会ニューズレター委員会 委員（2022年1月～2023年12月）	2010年4月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る 2019年4月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） IBS症状を呈する女子大 学生の臨床動作法への 主体的な取り組みのた めの工夫	共著	2021年6月	心理臨床学研究 第39巻2号	①概要： 臨床動作法の取り組みにおい て長期化した IBS 症状の軽減 が認められた女子大学生との 面接経過を報告した。症状の軽 減に寄与したと推察される臨 床動作法の体験および、そのう えで重要な工夫や配慮点につ いて考察した。 ②共著者名：古賀聡 ③該当ページ：p.97-107
（翻訳）				
（学会発表） 研究報告会発表 女子大学生を対象にし た健康管理カルテの作 成と有用性	共	2022年3月	2021年度西南女学院 大学保健福祉学部付 属保健福祉学研究所 報告会	①概要： 女子学生の健康に対する意識を 高め、学生の健康維持・増進に向 けた学生支援の取り組みを実施 するための方法として、「健康管 理カルテ」の作成を行った。今後 、その有用性を調査し改良を重ね ることで、より学生にとって利用 しやすい「健康管理カルテ」を作 成する。 ②共著者名： 樋口由貴子、目野郁子、高崎智子 、山田恵、大内田知英 ③該当ページ： 報告書は発刊前のため記載なし。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学 保健福祉学部附属 保健福祉学研究所 研究費	○樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	面接指導員	2021年4月～2022年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職, 委員, 学生支援など）
学生個人情報保護委員会 2021年4月～2022年3月 キャンパス・ハラスメント 相談員 2021年4月～2022年3月